

②ビデオ調査による採餌行動確認状況

営巣木ビデオ調査で確認したオオタカの巣への餌の持ち込みは表 6.3.2-6 に示すとおりである。

表 6.3.2-6 繁殖巣への餌の持ち込み（営巣木ビデオ調査）

つがい	撮影日時	獲物の種類と確認回数	合計回数
[黒塗り]	平成 23 年 6 月 6 日 9:21~14:20	不明 1 小型鳥類 1	2
	平成 23 年 6 月 7 日 9:13~14:18	小型鳥類 3	3
	平成 23 年 6 月 9 日 9:03~15:38	中型鳥類 1	1
	平成 23 年 6 月 25 日 7:45~18:00	小型鳥類 1 中型鳥類 1	2
[黒塗り]	平成 23 年 7 月 4 日 8:49~14:32	不明	1

※親鳥は獲物を解体してから巣に持ち込むため鳥類の種は判別できなかった。

[黒塗り]の巣 [黒塗り]への餌の持ち込みは確認されなかった。

③食痕の確認状況

鳥類（猛禽類）営巣木調査等で確認した食痕は表 6.3.2-7 に示すとおりである。

表 6.3.2-7 食痕確認状況

対象つがい(推定)	確認日	確認場所	食痕の種類
[黒塗り]	平成 23 年 3 月 28 日	[黒塗り]	カラス類の羽
			カラス類の羽
	平成 23 年 11 月 9 日	[黒塗り]	ハシブトガラスの羽・骨
	平成 23 年 12 月 21 日	[黒塗り]	レース鳩の足環
[黒塗り]	平成 23 年 3 月 28 日	[黒塗り]	ドバトの羽
	平成 23 年 8 月 20 日	[黒塗り]	キジバトの骨
			ヒヨドリの羽
			オナガの羽
			レース鳩の足環

※ [黒塗り]の食痕は確認されなかった。

6) 竜の口橋梁工事箇所での出現

竜の口橋梁工事箇所でのオオタカの出現は図 6.3.2-10 に示すとおりである。オオタカの工事箇所の通過は繁殖期に 7 回、非繁殖期に 3 回、合計 10 回確認した。繁殖期の大部分（3 月 12 日～6 月 19 日）は東日本大震災の影響により竜の口橋梁の工事を休止していた。工事実施期間中の出現は 4 例あり、このうち昼休みの出現は 1 例だった。昨年の調査では 5 例中 4 例が昼休みの出現であり、オオタカが工事を警戒している可能性が示唆されたが、今回の調査結果を昨年と比較すると、オオタカが工事に慣れた可能性があると考えられる。

竜の口橋梁工事箇所での出現状況(平成 23 年 1～12 月)

確認時期	No.	確認日時	出現時の高度	出現状況概要
繁殖期	1	平成23年2月21日 8:53	右岸下段のクレーン先端と同程度の高さ	
	2	平成23年3月29日 13:25	左岸上段のクレーンと同じかやや高い位置	
	3	平成23年5月10日 11:23	左岸上段のクレーン先端より低い位置	
	4	平成23年6月8日 11:58	左岸下段のクレーンのブーム付近の高さ	
	5	平成23年6月9日 10:43	左岸上段の栈橋橋げた程度の高さ	
	6	平成23年6月9日 13:16	左岸下段栈橋より若干高い位置	
	7	平成23年6月9日 14:10	左岸側クレーンのブームの高さ	
非繁殖期	8	平成23年7月4日 10:57	右岸下段仮栈橋と同じ高さ	
	9	平成23年10月3日 12:33	左岸上段仮栈橋と同程度の高さ	
	10	平成23年12月5日 8:53	上段仮栈橋と同程度の高さ	

・着色部分は工事休止中。・何れも [] の記録である。・高空を通過した場合を除く。

注目すべき種保護の目的から確認位置等については公表しないこととしております。



凡例 ◇被攻撃 H羽ばたきディスプレイ [] 竜の口橋梁建設箇所

図 6.3.2-10 竜の口橋梁工事箇所でのオオタカの出現（平成 23 年 1～12 月）

(2) ハヤブサ

1) 確認状況

①繁殖期（平成23年1～8月）

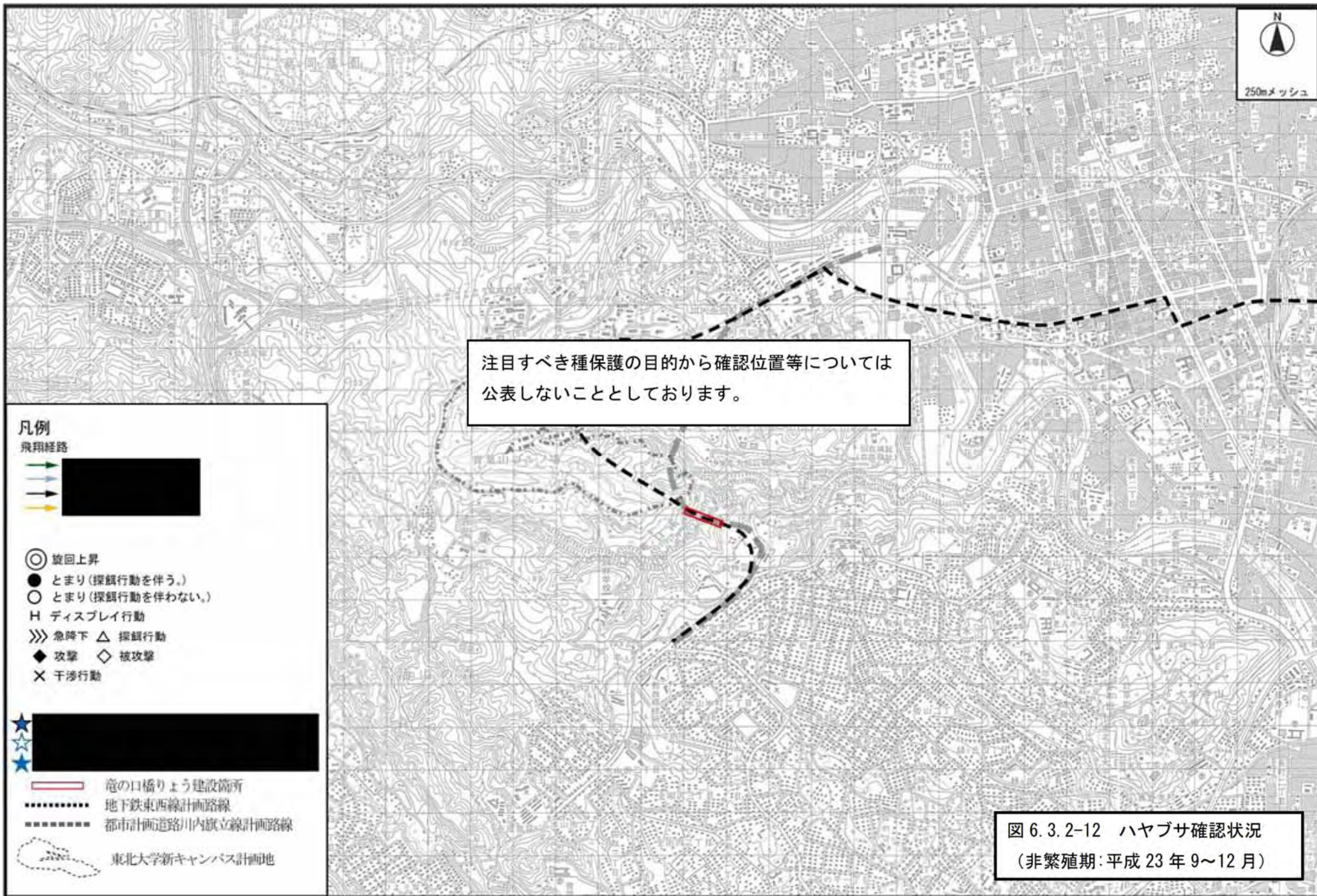
繁殖期のハヤブサの確認状況は図 6.3.2-11 に示すとおりである。ハヤブサは主に [] や [] に出現した。

ハヤブサ [] は、巣穴 [] に出入りしたことから、 [] で繁殖を開始したものと考えられたが、雛の姿は確認されず、繁殖に失敗したものと考えられた。

ハヤブサ [] は、巣穴 [] で繁殖し、3羽の雛が巣立った。

②非繁殖期（平成23年9～12月）

非繁殖期のハヤブサの確認状況は図 6.3.2-12 に示すとおりである。ハヤブサは繁殖期と同様に主に [] や [] に出現した。



※この図は、国土院発行の25万分の1地形図(仙台西東部、仙台西北部、仙台東部、仙台東北部)を加工して作成したものである。

2) 行動圏解析結果

①繁殖期（平成23年1～8月）

の繁殖期の行動圏解析結果は表6.3.2-8、図6.3.2-13に示すとおりである。

は巣穴で繁殖したが失敗したものと考えられる。このため、同つがいの行動圏はのあるを中心分布している。

はの高利用域に含まれている。

表 6.3.2-8 ハヤブサの行動圏解析結果(繁殖期:平成23年1～8月)

		最大行動圏	95%行動圏	高利用域	営巣中心域	出現頻度が2以上の範囲
	メッシュ数	211	134	36	—	21
	面積 (ha)	1318.75	837.50	225.00	—	131.25

②非繁殖期（平成23年9～12月）

の非繁殖期の行動圏解析結果は表6.3.2-9、図6.3.2-14に示すとおりである。の行動圏は繁殖期と同様にを中心分布している。

はの高利用域に含まれている。

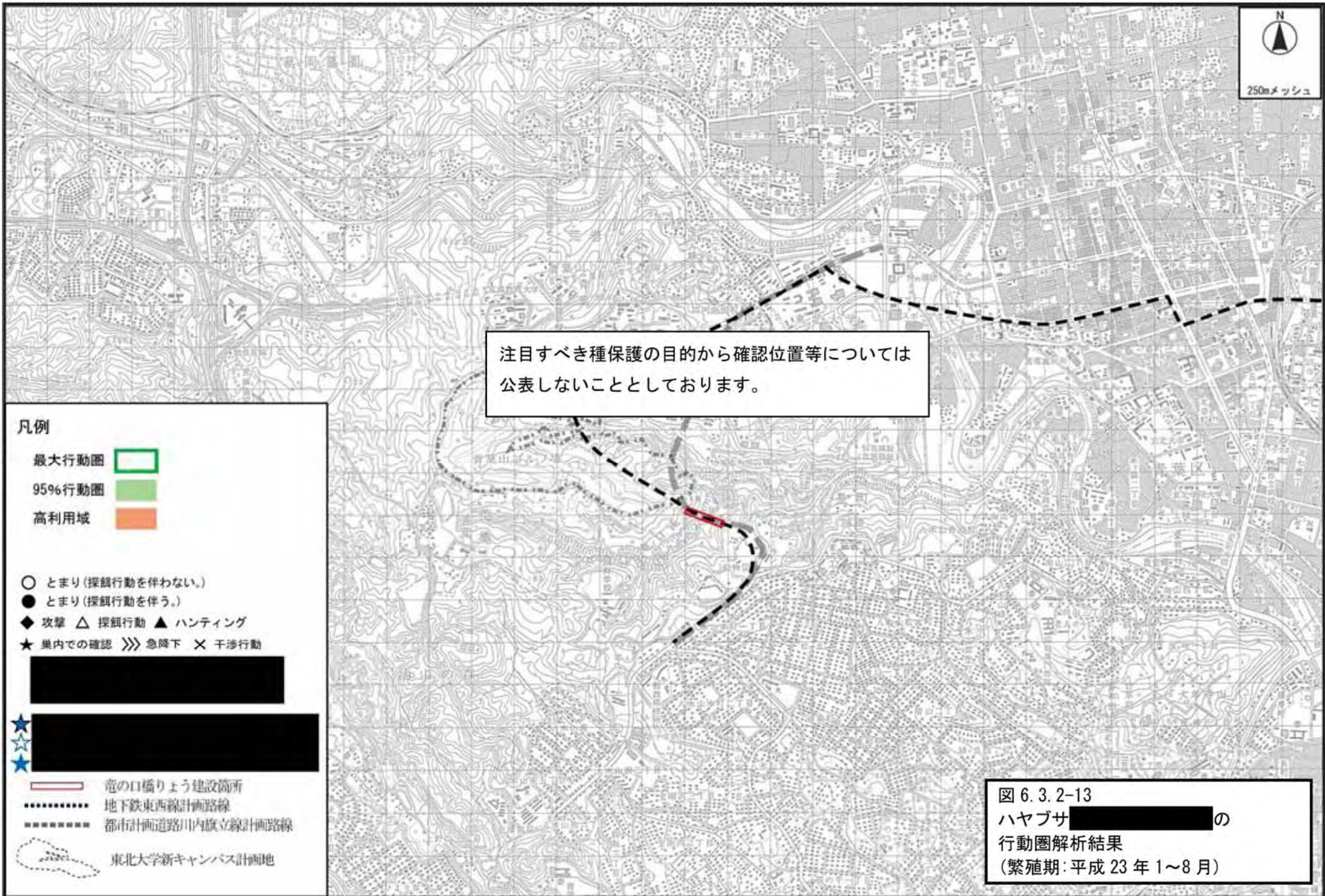
表 6.3.2-9 ハヤブサの行動圏解析結果(非繁殖期:平成23年9～12月)

		最大行動圏	95%行動圏	高利用域	出現頻度が2以上の範囲
	メッシュ数	293	199	51	19
	面積 (ha)	1831.25	1243.75	318.75	118.75

①の出現地域（平成23年1～12月）

の出現地域は図6.3.2-15に示すとおりである。の個体は巣穴のあるやに出現した。

巣立ち後の幼鳥を確認したを含む1メッシュをの営巣中心域とした。



注目すべき種保護の目的から確認位置等については
公表しないこととしております。

凡例

- 最大行動圏
- 95%行動圏
- 高利用域

- とまり (探餌行動を伴わない)
- とまり (探餌行動を伴う)
- ◆ 攻撃 △ 探餌行動 ▲ ハンティング
- ★ 巣内での確認 >>> 急降下 × 干渉行動



- 竜の口橋りょう建設箇所
- 地下鉄東西線計画路線
- 都市計画道路川内旗立線計画路線
- 東北大学新キャンパス計画地

図 6.3.2-13
ハヤブサ の
行動圏解析結果
(繁殖期:平成 23 年 1~8 月)

※この図は、国土地理院発行の2,500分の1地形図(仙台西側部、仙台西北部、仙台東側部、仙台東北部)を加工して作成したものである。

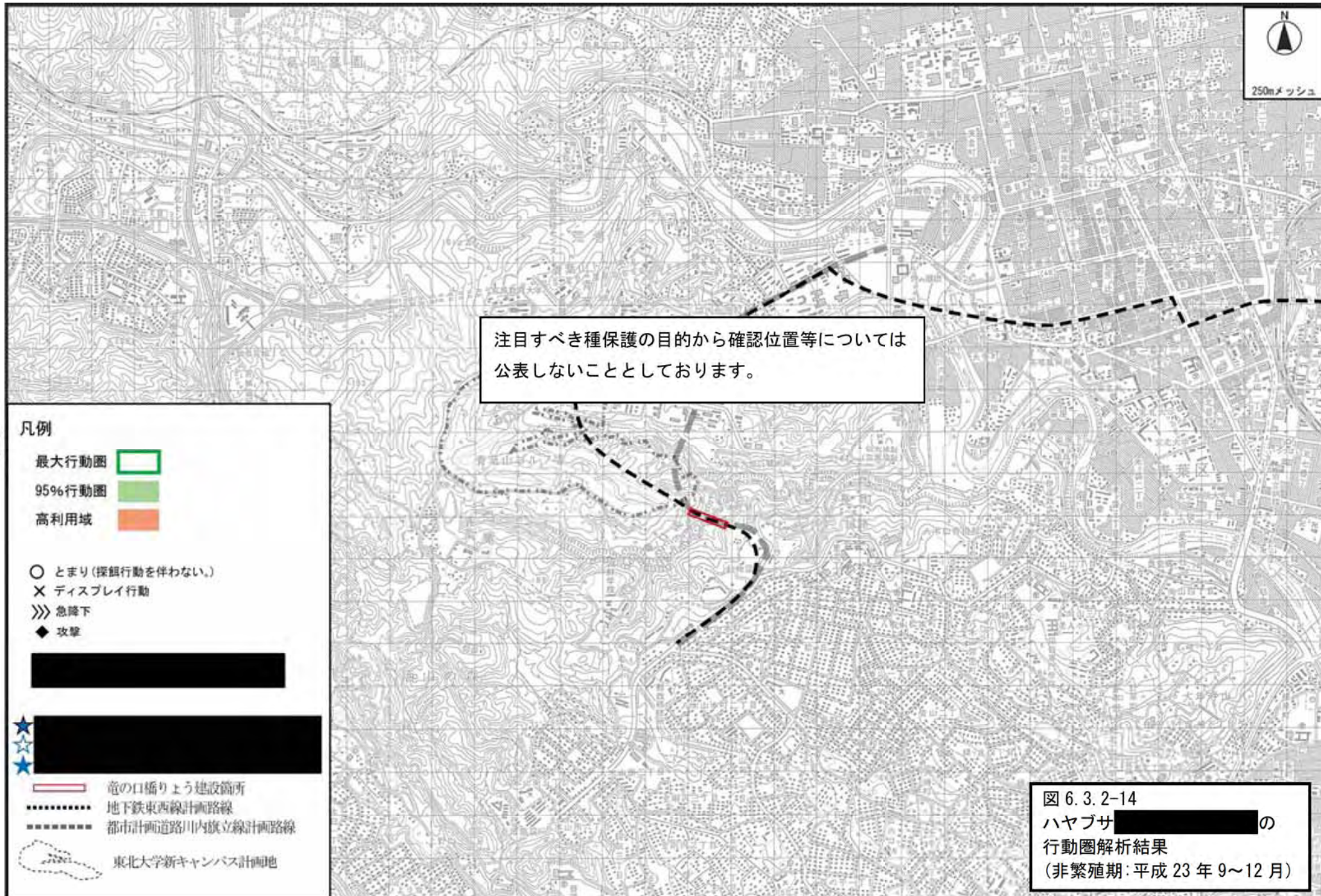
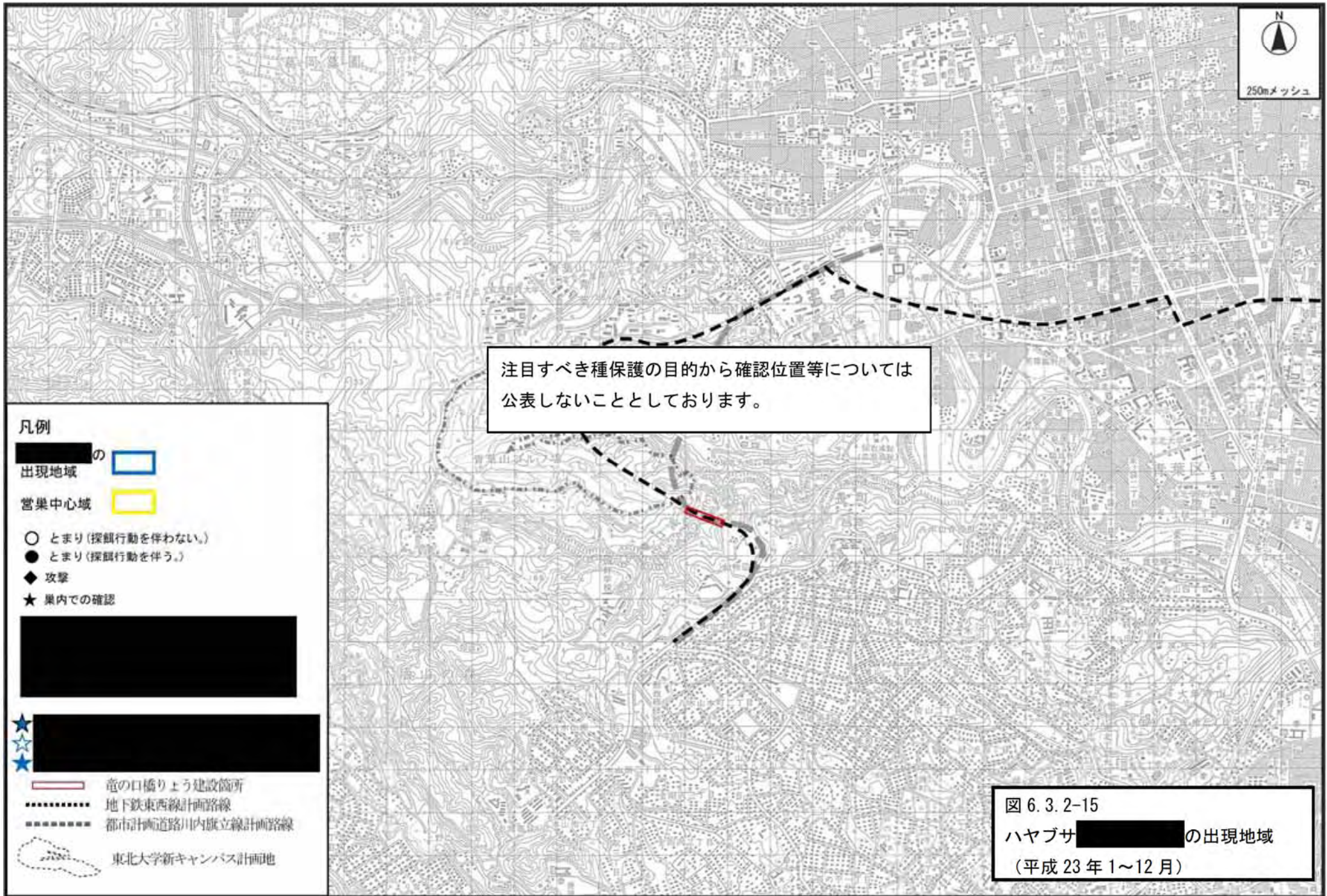


図 6.3.2-14
 ハヤブサ [redacted] の
 行動圏解析結果
 (非繁殖期:平成 23 年 9~12 月)

※この図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図(仙台西側部、仙台西北部、仙台東側部、仙台東北部)を加工して作成したものである。



※この図は、国土院発行の2万5千分の地形図(仙台西部、仙台西部、仙台東部、仙台東部)を加工して作成したものである。

3) 過年度調査結果との比較

①繁殖期（1～8月）

を対象とした過年度の繁殖期の行動圏解析結果は表 6.3.2-10、図 6.3.2-16 に示すとおりである。高利用域を過年度と比較すると、を中心とする行動圏の分布状況に大きな変化は見られない。

は例年のの高利用域に含まれている。

表 6.3.2-10 の行動圏解析結果比較（繁殖期：1～8月）

		最大 行動圏	95% 行動圏	高利用域	営巢 中心域
平成 19 年	メッシュ数	81	62	17	3
	面積 (ha)	506.25	387.50	106.25	18.75
平成 20 年	メッシュ数	128	101	23	3
	面積 (ha)	800.00	631.25	143.75	18.75
平成 21 年	メッシュ数	166	94	24	—
	面積 (ha)	1037.5	587.5	150	—
平成 22 年	メッシュ数	131	82	15	—
	面積 (ha)	818.75	512.50	93.75	—
平成 23 年	メッシュ数	211	134	36	—
	面積 (ha)	1318.75	837.50	225.00	—

※平成 18 年はハヤブサの行動圏解析を行っていない。

平成 19 年の解析には以外の個体の記録が含まれている。

②非繁殖期（9～12月）

を対象とした過年度の非繁殖期の行動圏解析結果は表 6.3.2-11、図 6.3.2-17 に示すとおりである。繁殖期と同様に、行動圏の分布状況に大きな変化は見られない。

は例年のの高利用域に含まれている。

表 6.3.2-11 の行動圏解析結果比較（非繁殖期：9～12月）

		最大 行動圏	95% 行動圏	高利用域
平成 19 年	メッシュ数	55	42	17
	面積 (ha)	343.75	262.50	106.25
平成 20 年	メッシュ数	122	101	22
	面積 (ha)	762.50	631.25	137.50
平成 21 年	メッシュ数	148	105	23
	面積 (ha)	925	656.25	143.75
平成 22 年	メッシュ数	121	100	22
	面積 (ha)	756.25	625	137.5
平成 23 年	メッシュ数	293	199	51
	面積 (ha)	1831.25	1243.75	318.75

※平成 18 年はハヤブサの行動圏解析を行っていない。

平成 19 年の解析には以外の個体の記録が含まれている。

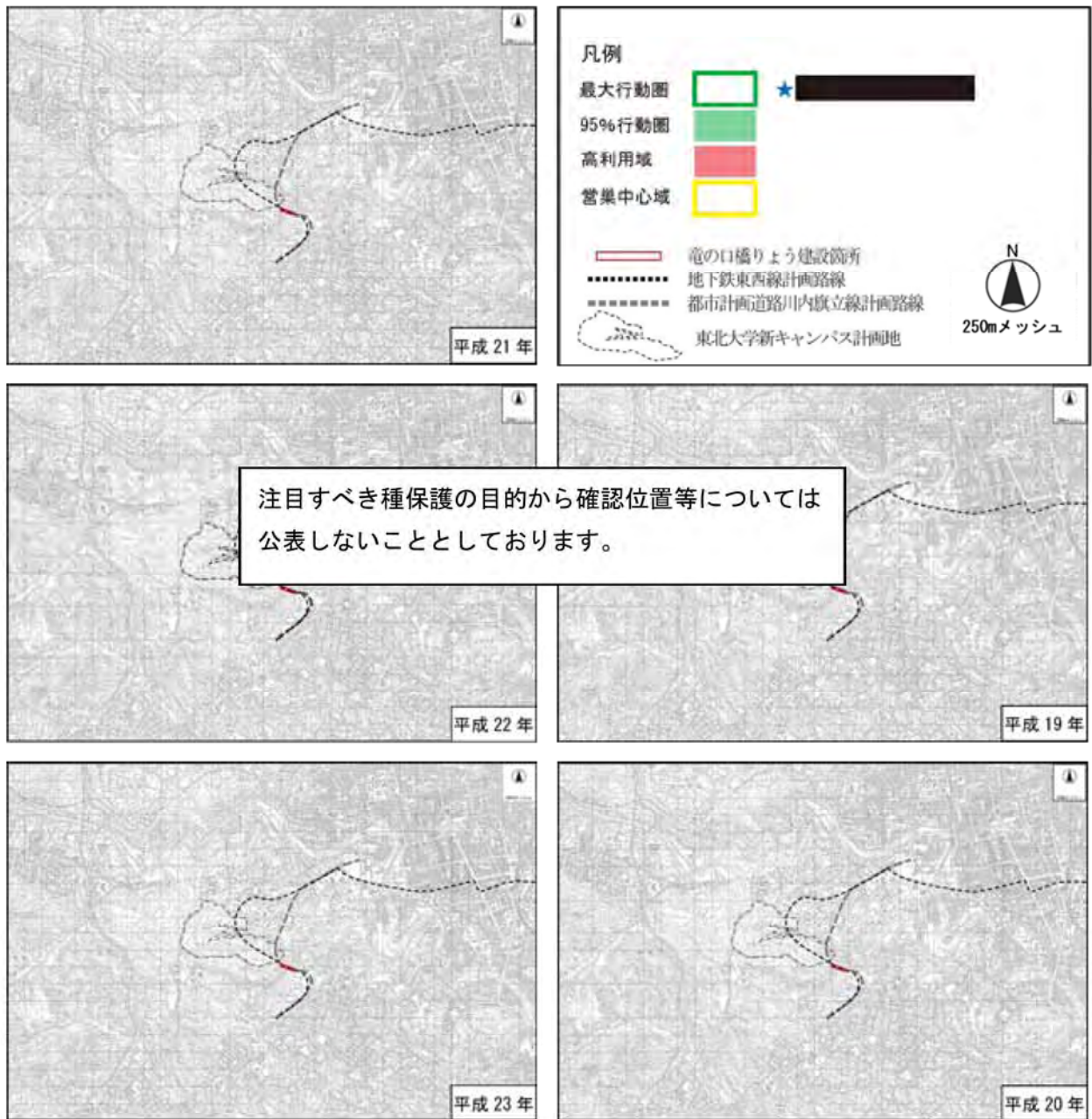


図 6.3.2-16 ハヤブサ [redacted] 行動圏解析結果 過年度との比較(繁殖期:1~8月)

※平成19年の解析には [redacted] 以外の記録が含まれている。

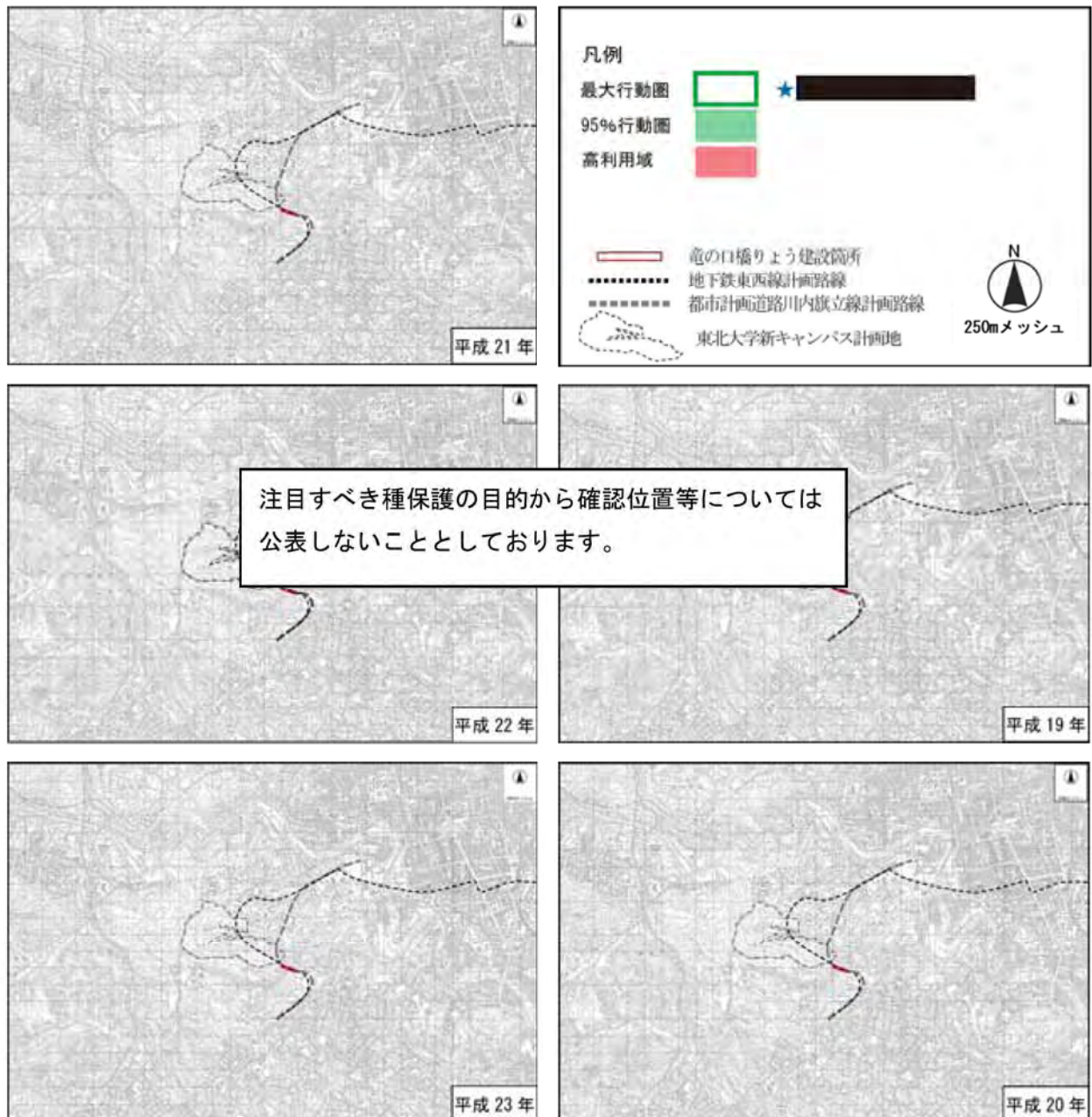


図 6.3.2-17 ハヤブサ [redacted] 行動圏解析結果 過年度との比較(非繁殖期:9~12月)

※平成19年の解析には [redacted] 以外の記録が含まれている。

4) 繁殖状況

① [] の繁殖関連行動の確認状況は表 6.3.2-12、写真 6.3.2-1 に示すとおりである。ハヤブサの育雛期に相当する 4～6 月にかけて、[] が巣穴 [] への雌雄の出入りや、餌を持ち込む様子を頻繁に確認した。このため、[] は [] で繁殖していたものと考えられるが、[] は内部が見えない位置にあり、雛の姿は確認されなかった。巣立ち時期の 6 月以降も [] 付近に巣立ち雛が出現しなかったことから、[] は平成 23 年の繁殖に失敗したものと判断した。

表 6.3.2-12 ハヤブサ [] の繁殖関連行動

確認日	繁殖関連行動	出現状況の概要
平成 23 年 4 月 26 日	抱卵?	雌が長時間 [] 内にいた。
平成 23 年 5 月 12 日	巣への出入り	雌雄の成鳥が餌を持って [] に入入りした。雄が雌に餌を渡す様子も見られた。
	餌運搬	[] より [] 方向へ不明の餌を持って飛んだ。
平成 23 年 6 月 8 日	巣への出入り	雌雄の成鳥が [] に入入りした。

注目すべき種保護の目的から確認位置等については公表しないこととしております。

上: 4 月調査時の様子(平成 23 年 4 月 26 日)
[] に飛来した [] の雄(①)と一時巣穴から出た雌(②)
雌は時々巣を離れたがすぐに戻り、多くの時間は巢内にいた。

上: 5 月調査時の様子(平成 23 年 5 月 12 日)
[] で [] の雄(左)が雌(右)へ餌を渡す様子

左: 6 月調査時の様子(平成 23 年 6 月 8 日)
[] に飛来したハヤブサ成鳥

※6 月 25 日に [] の至近で餌を持って飛び回るハヤブサ成鳥を確認しており、本つがいにも巣立ち雛がいる可能性が示唆されたが、雛は出現しなかった。

写真 6.3.2-1 ハヤブサ [] が [] へ出入りする様子

② [] の繁殖関連行動の確認状況は表 6.3.2-13、写真 6.3.2-2 に示すとおりである。[] は [] で繁殖し、3羽の雛が孵化した。6月22日に巣立ちを確認した雛は1羽だけだが、雛の日齢に差があったほか、確認時期がやや遅かったため、他の雛は既に巣立っていたものと思われる。

表 6.3.2-13 ハヤブサ [] の繁殖関連行動

確認日	繁殖関連行動	出現状況の概要
平成23年3月29日	抱卵	[] で抱卵していた。
平成23年5月11日	孵化	[] に孵化後10～14日程度と思われる雛が3羽いた。親鳥がドバトと思われる鳥類を雛に与えた。
平成23年6月8日	巣内育雛	[] に換羽の程度が異なる雛が2羽いた。3羽目が巣にいるかどうかは確認できなかった。
平成23年6月22日	巣立ち	[] そばの木で巣立ち雛1羽を確認した。

※平成23年9月7日の「青葉山周辺事業に係る関係課長会議」で有識者より [] の雛が3羽巣立ったとの情報を得た。

3月調査時の様子(平成23年3月29日)
[] で抱卵中のハヤブサ

5月調査時の様子(平成23年5月11日)
雛に給餌するハヤブサ
[] に3羽の雛がいた(5月11日確認)。
羽毛の状態から雛は孵化後10～14日程度と思われた。

貴重種保護の目的から確認位置等については
公表しないこととしております。

6月調査時の様子(左:平成23年6月8日 右:平成23年6月22日 何れも [] の雛)
6月8日(ハヤブサの巣立ち時期)は、換羽を終えた雛1羽と白い綿羽の多く残る雛1羽が [] 内に重なるように伏せていた。3羽目が巣内にいるかどうかはわからなかった。
6月22日は、[] そばの木で巣立ち雛1羽を確認した。

写真 6.3.2-2 [] の繁殖状況

※ **とハシブトガラスの関係について**

平成 21 年に の巣穴 上部のアカマツでハシブトガラスが営巣・繁殖したため、平成 22 年以降はハヤブサ とハシブトガラスとの関係に注意して調査を行った。その結果、ハヤブサとハシブトガラスの干渉行動は確認されなかったため、ハシブトガラスの存在が の繁殖に影響した可能性は低いと考えられる。

5) 採餌状況

定点調査で確認したハヤブサの採餌に関連する行動は表 6. 3. 2-14、図 6. 3. 2-18 に示すとおりである。 や で の個体がドバト、ハシブトガラス、小型鳥類などを捕らえようとする様子を確認した。

表 6. 3. 2-14 ハヤブサの採餌行動確認状況（平成 23 年 1～12 月）

確認時期	確認日	対象	つがい
繁殖期	平成23年1月27日	ドバト	
	平成23年2月22日	小型鳥類	
	平成23年4月27日	小型鳥類	
	平成23年5月9日	小型鳥類	
	平成23年5月11日	ハシブトガラス	
	平成23年6月7日	ツバメ?	
非繁殖期	採餌行動の確認なし		

注目すべき種保護の目的から確認位置等については公表しないこととしております。

図 6. 3. 2-18 ハヤブサの採餌関連行動（平成 23 年 1～12 月）

▲:ハンティング △:採餌行動 ●:採餌行動を伴うとまり 矢印:餌運搬 >>>急降下★:巣の位置
 としての個体の行動

6) 竜の口橋梁工事箇所での出現

竜の口橋梁工事箇所でのハヤブサの出現は図 6.3.2-19 に示すとおりであり、2月に [REDACTED] の個体が1回出現した。

確認時期	確認日時	出現時の高度	出現状況概要
繁殖期	平成23年2月23日 11:50	左岸上段のクレーン先端付近	[REDACTED]
非繁殖期	竜の口橋梁工事箇所での出現なし。		

[REDACTED] の記録である。
・高空を通過した場合を除く。

注目すべき種保護の目的から確認位置等については公表しないこととしております。

[REDACTED] 竜の口橋梁建設箇所

図 6.3.2-19 竜の口橋梁工事箇所での出現状況(平成23年1~12月)

7) オオタカとハヤブサの関係について

平成23年の調査では、オオタカとハヤブサの間で攻撃・威嚇といった干渉行動は確認されなかった。

3. 鳥類（猛禽類）営巣確認調査

オオタカ [] が繁殖した巣 [] の架巢状況は写真 6.3.3-1 に示すとおりであり、 [] 周辺の毎木調査結果は表 6.3.3-1、図 6.3.3-1、写真 6.3.3-2 に示すとおりである。 [] の直下で確認した食痕等は写真 6.3.3-3 に示すとおりである。

注目すべき種保護の目的から確認位置等については公表しないこととしております。

写真 6.3.3-1 [] の架巢状況
 左：営巣木全景 右上：巣の近景
 営巣木 樹種 []
 樹高：約 27m
 架巢高：約 22m
 胸高直径：69.4cm(218cm)
 架巢型：放射状に開いた樹冠に巣がある。
 位置情報(世界測地系)
 []

平成 23 年 3 月 28 日撮影

表 6.3.3-1 毎木調査結果 []

階層	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	立木密度(本/ha)	優占種	植被率(%)
高木層	[]	69.4	27	500	[]	45
	[]	25.5	19			
	[]	40.4	22			
	[]	35.0	24			
	[]	37.3	25			
亜高木層	アワブキ	13.1	12	1000	ウラゲ エンコウ カエデ	70
		3.8	5			
	コナラ	16.6	15			
	ウラゲエンコウカエデ	19.1	19			
	ウラジロノキ	7.0	9			
	カスミザクラ	25.2	17			
	アカシデ	18.5	13			
	アワブキ	9.9	11			
	ウラゲエンコウカエデ	12.1	12			
ヤマモミジ	5.1	7				
低木層	主な生育種：アオキ、カヤ、ヤブムラサキ			—	アオキ	70
草本層	主な生育種：ヤブラン、スゲ属の一種、ヤマツツジ、ミズシダ、キツタ、チゴユリ、テイカカズラ			—	—	15

注目すべき種保護の目的から確認位置等については
公表しないこととしております。

図 6.3.3-1 ■ 営巣地断面図

注目すべき種保護の目的から確認位置等については
公表しないこととしております。

写真 6.3.3-2 ■ 営巣地の林相（平成 23 年 8 月 20 日撮影）

注目すべき種保護の目的から確認位置等については
公表しないこととしております。

写真 6.3.3-3 ■直下で確認した食痕等（平成 23 年 8 月 20 日毎木調査時に確認）
左上：オオタカの卵殻 右上：キジバトの骨（食痕）
左下：巣の直下にあった羽毛
（左端はオオタカの羽。その他はオナガとヒヨドリ等の羽）
右下：レース鳩の足環（食痕）

4. 鳥類（猛禽類）営巣環境確認調査

(1) 騒音レベル

等価騒音レベルの算出結果は表 6.3.4-1 に示すとおりである。調査当日の等価騒音レベルは 40dB 程度だった。これは「静かな住宅地」に相当するレベルであり、一般にうるさいとされる値ではない。

(2) オオタカの行動

オオタカの成鳥は 8:00-19:00 の間に [REDACTED] に 5 回飛来し、見張り、餌運搬、巣材運搬を行った。工事の音に反応する様子はなかった。

雛の姿や声は確認されなかった。成鳥は持ち込んだ餌を自分で食べていた。

表 6.3.4-1 等価騒音レベル算出結果

平成 23 年 6 月 25 日測定

解析時間帯		騒音レベル (dB)			
		L_{Aeq}	瞬時値の 最大値	瞬時値の 最小値	瞬時値の 平均値
午前	9:00:00-11:00:00	42.8	62.7 (工事音)	34.3	41.4
昼休み	12:30:00-12:59:59	39.5	54.0	33.2	38.4
午後	13:00:00-15:00:00	42.5	61.4 (工事音)	33.8	41.1

第4節 廃棄物等調査

1. 廃棄物の発生量及び処理状況

工事に伴い発生した主要な廃棄物の発生量を表6.4.1-1に示す。発生した廃棄物については、極力再資源化を図ることとした。

表 6.4.1-1 工事に伴い発生した主要な廃棄物の量

廃棄物名		工事別主要廃棄物の発生量 (平成 18 年 12 月～平成 24 年 3 月)								総計
		川内 旗立線 取付道路	(仮称) 動物公園駅前広場							
			八木山 青葉山 線工事※2	造成 工事 1※1	造成 工事 2※1	造成 工事 3※1	補償 工事※1	動物公園 前線工事 ※2	動物公園 駅周辺 整備	
コンク リート塊 (無筋)	設計数量 m ³	15.00	16.00	32.00	185.00	159.00	5.00	215.00	612.00	627.00
	設計数量 t	35.25	37.60	75.20	434.25	373.65	11.75	505.25	1,437.70	1,472.95
	処理量 m ³	15.11	20.17	34.43	271.90	188.51	10.60	218.10	743.71	758.81
	処理量 t	35.50	47.40	80.90	638.96	443.01	24.90	509.71	1,744.88	1,780.38
	差 m ³	0.11	4.17	2.43	86.90	29.51	5.60	3.10	131.71	131.81
	差 t	0.25	9.80	5.70	204.71	69.36	13.15	4.46	307.81	307.43
コンク リート塊 (有筋)	設計数量 m ³	37.00	60.00	57.00	82.00	68.70	0.60	334.00	602.30	639.30
	設計数量 t	92.50	150.00	142.50	205.00	171.75	1.50	835.00	1,505.75	1,598.25
	処理量 m ³	37.94	63.39	60.04	41.60	112.98	3.83	337.30	619.14	657.08
	処理量 t	94.86	158.48	150.10	104.00	282.44	9.00	842.38	1,546.40	1,641.26
	差 m ³	0.94	3.39	3.04	-40.40	44.28	3.23	3.30	16.84	17.78
	差 t	2.36	8.48	7.60	-101.00	110.69	7.50	7.38	40.65	43.01
アスファ ルト塊	設計数量 m ³	34.89	1.00	29.00	94.00	86.00	45.20	175.00	430.20	465.09
	設計数量 t	82.00	2.35	68.15	220.90	202.10	106.22	411.25	1,010.97	1,092.97
	処理量 m ³	37.27	2.46	31.06	130.92	186.94	54.43	228.85	634.66	671.92
	処理量 t	87.58	5.77	73.00	307.66	439.30	127.90	539.10	1,492.73	1,580.31
	差 m ³	2.37	1.46	2.06	36.92	100.94	9.23	53.85	204.46	206.83
	差 t	5.58	3.42	4.85	86.76	237.20	21.68	127.85	481.76	487.34
木くず	設計数量 m ³	556.00	234.00	324.00	246.00	1,510.00	-	230.00	2,544.00	3,100.00
	処理量 m ³	556.50	236.40	366.00	147.20	1,512.00	-	198.22	2,459.82	3,016.32
	差 m ³	0.50	2.40	42.00	-98.80	2.00	-	-31.78	-84.18	-83.68
廃プラ スチック	設計数量 m ³	0.00	-	-	-	-	-	-	0.00	0.00
	処理量 m ³	7.60	12.83	-	16.20	-	-	20.50	49.53	57.13
	差 m ³	7.60	12.83	-	16.20	-	-	20.50	49.53	57.13
金属くず	設計数量 m ³	0.00	10.00	-	-	-	-	-	10.00	10.00
	処理量 m ³	2.40	9.28	-	0.60	-	-	5.0	14.88	17.28
	差 m ³	2.40	-0.72	-	0.60	-	-	5.0	4.88	7.28
建設汚泥	設計数量 m ³	858.40	-	-	-	-	-	-	0.00	858.40
	処理量 m ³	858.40	-	-	-	-	-	-	0.00	858.40
	差 m ³	0.00	-	-	-	-	-	-	0.00	0.00

※1：事後調査報告書（第2回）において報告済みの発生量

※2：事後調査報告書（第3回）において報告済みの発生量

注) 造成工事 1: 「平成 18 年度(市)川内旗立(その 1)線 (仮称)動物公園駅前広場造成工事 1 産業廃棄物処理報告書」

(伸和興業株式会社) より作成

造成工事 2: 「平成 19 年度(市)川内旗立(その 1)線 (仮称)動物公園駅前広場造成工事 2 産業廃棄物処理報告書」

(木皿建設株式会社) より作成

造成工事 3: 「平成 20 年度(市)川内旗立(その 1)線 (仮称)動物公園駅前広場造成工事 3 産業廃棄物処理報告書」

(株式会社深松組) より作成

補償工事: 「地方道第 2 号(市)川内旗立(その 1)線 (仮称)動物公園駅前広場整備に伴う補償工事 産業廃棄物処理集計表」

(株式会社深松組) より作成

八木山青葉山線工事: 「(市)川内旗立(その 1)線(動物公園区)整備に伴う(市)八木山青葉山線道路改良工事 建設廃棄物マニフ

ェスト(排泥処理)」および「同 建設系廃棄物マニフェスト票」(奥田建設株式会社) より作成

動物公園前線工事: 「(市)川内旗立(その 1)線整備に伴う(市)動物公園前線道路新設工事 マニフェスト」

(株式会社橋本店) より作成

動物公園駅周辺整備: 「(市)川内旗立(その 1)線 (動物公園駅周辺整備) 道路改良工事 1 マニフェスト」

(株式会社橋本店) より作成

廃棄物のうちアスファルトの運搬及び受け入れ地の状況を写真 6. 4. 1-1 に示す。



(アスファルト積み込み状況)



(アスファルトの運搬)



(アスファルト積み込み状況)



(受け入れ地入り口)



(現場出入口)



(アスファルトの積み下ろし)

写真 6. 4. 1-1 アスファルトの運搬及び受け入れ地の状況(平成 23 年 2 月撮影)

出典：「(市)川内旗立(その 1)線 (動物公園駅周辺整備) 道路改良工事 1 写真集」(株式会社橋本店)

2. 残土の発生量及び処理状況

工事に伴い発生した残土の発生土量を表 6.4.2-1 に示す。

発生した残土については、設計段階が進むにつれて精査を行い、余剰土量を必要最小限にとどめることにより発生土量を抑制した。

なお、平成 18 年度から平成 21 年度までの結果は、年度ごとにまとめて記載した (H18.12～H22.11 までの結果は事後調査報告書第 2 回及び第 3 回で報告済)。

表 6.4.2-1 工事に伴い発生した建設残土発生量

(単位：m³)

調査期間	工事別搬出、発生土量 (平成 18 年 12 月～平成 24 年 3 月)						計
	造成 工事 1 ^{※1}	造成 工事 2 ^{※1}	造成 工事 3 ^{※1}	補償 工事 ^{※1}	動物公園 前線工事 ^{※2}	動物公園 駅周辺 整備	
平成 18 年度 (H18.12～H19.3)				15,004			15,004
平成 19 年度 (H19.4～H20.3)	41,345	18,400		23,528			83,273
平成 20 年度 (H20.4～H21.3)			11,174				11,174
平成 21 年度 (H21.4～H22.3)			38,690		12,360		51,050
平成 22 年 4 月					2,260		2,260
平成 22 年 5 月					765		765
平成 22 年 6 月					645		645
平成 22 年 7 月					575		575
平成 22 年 8 月					5,431		5,431
平成 22 年 9 月					4,250		4,250
平成 22 年 10 月					4,420		4,420
平成 22 年 11 月							
平成 22 年 12 月						3,450	3,450
平成 23 年 1 月						2,098	2,098
平成 23 年 2 月						3,045	3,045
平成 23 年 3 月						1,855	1,855
平成 23 年 4 月							
平成 23 年 5 月							
平成 23 年 6 月							
平成 23 年 7 月						940	940
平成 23 年 8 月						250	250
平成 23 年 9 月						1,140	1,140
平成 23 年 10 月						2,515	2,515
平成 23 年 11 月						2,180	2,180
平成 23 年 12 月						305	305
平成 24 年 1 月						700	700
自工区内処理分	360		1,910	5,195	6,548	540	14,553
隣接工区への排出分	12,300		1,727		2,899		16,926
残土発生量	54,005	18,400	53,501	43,727	40,153	19,018	228,804
工区内処理率	23.4%	0.0%	6.8%	11.9%	23.5%	2.8%	13.8%

※1：事後調査報告書（第 2 回）において報告済みの発生量

※2：事後調査報告書（第 3 回）において報告済みの発生量

注) 造成工事 1: 「平成 18 年度(市)川内旗立(その 1)線 (仮称)動物公園駅前広場造成工事 1 産業廃棄物処理報告書」
(伸和興業株式会社) より作成

造成工事 2: 「平成 19 年度(市)川内旗立(その 1)線 (仮称)動物公園駅前広場造成工事 2 産業廃棄物処理報告書」
(木皿建設株式会社) より作成

造成工事 3: 「平成 20 年度(市)川内旗立(その 1)線 (仮称)動物公園駅前広場造成工事 3 産業廃棄物処理報告書」
(株式会社深松組) より作成

補償工事: 「地方道第 2 号(市)川内旗立(その 1)線 (仮称)動物公園駅前広場整備に伴う補償工事 産業廃棄物処理集計表」
(株式会社深松組) より作成

動物公園前線工事: 「(市)川内旗立(その 1)線整備に伴う(市)動物公園前線道路新設工事 掘削残土搬出量等記録表」
(株式会社橋本店) より作成

動物公園駅周辺整備: 「(市)川内旗立(その 1)線 (動物公園駅周辺整備) 道路改良工事 1 掘削残土搬出量等記録表」
(株式会社橋本店) より作成

掘削土は、自工区内の裏込材の使用や隣接工区での使用を行ったうえ、余剰分は全て県内の残土受け入れ地へ搬入した。

残土の運搬及び受入地の状況を写真 6.4.2-1 に示す。



(残土の積載)



(受入地入り口)



(現場出入口)



(受入地への残土の積み下ろし)



(残土の運搬)



(受け入れ地の状況)

写真 6.4.2-1 残土の運搬及び受入地の状況(平成 23 年 2 月撮影)

出典：「(市)川内旗立(その1)線 (動物公園駅周辺整備) 道路改良工事1 写真集」(株式会社橋本店)